

12月25日 主の降誕

私たちのために救い主が誕生した

ルカによる福音書 2章 1～14節

¹ そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。² これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。³ 人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。⁴ ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。⁵ 身ももっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。⁶ ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、⁷ 初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

⁸ その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。⁹ すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。¹⁰ 天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。¹¹ 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。¹² あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」¹³ すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

¹⁴ 「いと高きところには栄光、神にあれ、
地には平和、御心に適う人にあれ。」

他の朗読：イザヤ 8:23b, 9:1～6 詩編 96:1～3, 11～13 テトス 2:11～14

Lectio …読む

イエス誕生の物語がふたつの場面で描かれています。ルカは、第一の場面である1～7節で、イエスの母と父ヨセフはパレスチナの北部ナザレに住んでいたのに、どうしてイエスは南部のベツレヘムで誕生したのか、ということを説明しています。

ヨセフに住民登録をする必要が生じます。ダビデ王の子孫として、ベツレヘムへ帰省しなければならないのです。マリアはそこでイエスを産みます。ダビデ王の子孫にメシアを遣わす、という神の約束が成就したのです。イエス誕生の場所までもが預言者によって預言されていたのです。

8～14節に描かれる第二の場面では、イエス誕生の知らせがいかにして外の世界の人々にもたらされたのかを知ることが出来ます。驚くべきことに、この知らせを受け取るのは羊飼いたちです。神は幼子の誕生と、この幼子の正体を明かすため、天使を遣わします。マリアとヨセフには泊まる場所がなかったので、幼子は動物と共に貧しい飼い葉桶で誕生しました。

天使たちはこの幼子誕生の興奮を抑えることができないようです。突然この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して歌いだします。

今日の聖書朗読はここで終わりますが、物語は続きます。羊飼いたちは天使が述べたこの知らせを信じ、自分たちで確かめるためにベツレヘムへ行きます。彼らはイエスを見つけ、天使たちが彼らに言ったことをすべてマリアとヨセフに伝えたのです。まさに彼らこそ、イエスが長く待ち望まれた救い主であると告げ知らせる最初の人となったのです。

Meditatio …黙想する

今日は典礼暦全体の中でも、最も喜ばしい日のひとつでしょう。世界中の何百万という人々と共にイエスを礼拝しましょう。

父なる神がこのような方法で、御子イエスを地上に遣わして下さったことの不思議をかみしめましょう。

また、イエスが天の栄光を離れ、動物の飼い葉桶をいとわず幼子として生まれるよう備えられた不思議をかみしめましょう。

御父と御子の驚くべき愛を示すものとしてこの出来事は準備されました。

イエスがあなたの救い主であり、主であることを考えてみましょう。それはあなたにとってどのような意味がありますか。

Oratio …祈る

天使の大軍が最初のクリスマスの夜に歌った「いと高きところには栄光、神にあれ」という言葉を響かせましょう。このすばらしい賛美の言葉を繰り返しましょう。

イエスを救い主として遣わして下さった神に感謝を捧げましょう。

心の中にイエスのための場所をつくることが出来ない人々を思い起こしましょう。

Contemplatio …観想する

今日の福音の朗読箇所をより理解するために、典礼はイザヤ 9 章 1～6 節とテトス 2 章 11～14 節を示します。どちらも、救いについて述べています。

イザヤ 9 章 5 節で、私たちの救い主に与えられている 4 つの称号、「驚くべき指導者」「力ある神」「永遠の父」「平和の君」について少しの間思い巡らしてみましょう。

テトスへの手紙は、神は人類を罪と弱さから解放するために恵みを現してくださる、とはっきりと示してくれています。罪が私たちを奴隷にしている、イエスが解放してください。今こそ、私たちは恵みによって救いを得、神に好まれる生き方をすることができるのです。